

『トンネルと地下』投稿規程

1. 「トンネルと地下」誌は以下の分類の投稿が可能である。
 - ・論文（施工，計画，研究，報告，解説）
 - ・トンネルウォール
 - ・トンネルジャーナル
 - ・工法・技術・製品ニュース
2. 投稿は郵送または Web 入稿とする。投稿方法は下記を参照すること。
3. 「論文」および「トンネルウォール」は執筆要領を参照の上，原稿を作成すること。「トンネルジャーナル」および「工法・技術・製品ニュース」は下記問合せ先へ問い合わせの上，原稿を作成すること。
4. 「論文」の種別を指定することはできない。
5. 「論文」および「トンネルウォール」は編集委員会で査読を行い，採否，掲載号を決定する。また，査読により内容や字句の加除および訂正を求めることがある。
6. 用字・用語の体裁は編集部で統一することがある。

【投稿方法】

郵送の場合：

必要なデータを CD に保存して下記問合せ先まで送付すること。また，打ち出し原稿も 1 部同封すること。

Web 入稿の場合：（システム構築中）

【問合せ先および原稿送付先】

〒162-0832 東京都新宿区岩戸町 16 メイジャー神楽坂 ☎03-3267-2888
(株)土木工学社 編集部

『トンネルと地下』執筆要領（論文用）

1. 原稿(図・表・写真含む)は、原則として Microsoft Word(以下、Word)を用いて作成する。原稿のサイズはA4判とする。
2. 原稿は、郵送、または、Web 入稿にて提出する。郵送の場合は、データを CD に保存して、コピー 1 部を併せて提出する。Web 入稿の場合は、Word のデータ、および、PDF に変換したデータも併せて提出する。
3. 提出された原稿は編集委員会にて査読し、内容・字句の加筆・修正を求めることがある。
4. 原稿 1 頁の文字数は 12 ポイントの文字で、22 字詰め 30 行、または、10.5 ポイントの文字で、22 字詰め 30 行 2 段組のいずれかで作成する(余白は 12 ポイントの場合、上・下 25mm, 左 40mm, 右 75mm, 10.5 ポイントの場合、上・下 25mm, 左・右 15mm を目安とする)。
5. 原稿のボリュームは原則として掲載誌の刷上りで 8 頁以内とする(図・表・写真含む)。ただし、編集委員会が超過頁を認めた場合は最大で 12 頁まで認める。掲載誌の刷上り 8 頁は、表題・見出しなどの分を考慮し 13000 字程度を目安とする(上記 4 の書式で、文字の大きさが 12 ポイントの場合 18 枚程度、10.5 ポイントの場合 9 枚程度です。ただし、図・表・写真含んだボリュームです。)。図・表・写真の刷上りのボリュームは 1 頁大で 1760 字、1/2 頁大で 880 字、1/4 頁大で 440 字、1/8 頁大で 220 字を目安とする。
6. 投稿カードに連絡責任者の勤務先住所、所属名、氏名、郵便番号、電話番号、ファックス番号、E-mail アドレス等を記入する。
7. 原稿の 1 頁目に第一著者名とその勤務先名・所属名を和文および英文で記入し、論文概要を 300 字程度でまとめる。(書式自由)
8. 原稿の 2 頁目に表題(20 字程度以内)と執筆者の氏名(全員)および勤務先名、所属・役職名を記入する。ただし、所属・役職名は 40 字以内とする。また、所属・役職名は原稿にかかわったときの所属・役職名を記載する。異動先の所属・役職名を記載したい場合は元の所属・役職名と併記とし、以下の例にならぬ記載する。
例 1 : ○○省○○局○○((現)○○省○○局○○)
例 2 : ○○共同企業体○○トンネル作業所長 ((現) (株)○○建設○○部○○)
表題中特殊な読みをするものがあればふりがなをふる(とくにトンネル名などの固有名詞)。表題には副題をつけてもよいが、副題は原則的に工事件名とする。正式な工事件名が長い場合は、読者にわかりやすく簡略した表記とする。(書式自由)
9. 執筆者は最高 4 名までとし、同一団体からの執筆者は 3 名を限度とする。施工報告の場合は原則として発注者、および、施工業者の共同執筆とする。
10. 文章は、平易で簡潔な文書体(「である」式)とし、原則として常用漢字、および、現代かなづかいを用いてわかりやすく書く。
11. 和文の句読点は全角の「、(カンマ)」、「.(ピリオド)」とする。英文および数字は半角とする。
12. 章、節、項の記号および細分の順序は、次のようにする。1., 1-1, 1-1-1, (1)
13. 図、表、写真のキャプション(説明文)は別紙に一括して記入する。
14. 図、表、および、写真は、図-○、表-○、写真-○のように書き、初出はゴシック体に、2 回目以降は明朝体とし、挿入位置がわかるように本文中に記述する。
例 1 : ……を図-○に示す
例 2 : 表-○に示すように……
例 3 : ……(写真-○参照)
15. 年号は西暦とする。ただし、和暦を併記することは可能である。併記の例 : 「2023(令和 5)年」
16. 単位系は国際単位系を用いる。単位の書体は立体(ローマン体)とする。

17. 物理量を表す記号は、斜体(イタリック体)で原則として1文字で表す。添字が物理量、あるいは、番号に対応する場合は斜体で表し、ことばの意味を表す場合は立体で表す。
18. 数学の記号は原則として、立体で表し、量記号は斜体で表す。また、定数は原則として立体とする。
19. 数式は必要により、(1)、(2)のように番号を右端につける。式番号を本文中で引用するときには、式(1)、式(2)などと表記する。
20. 文献を引用するときは、引用箇所の肩に 1)、2) ……のように肩番号をつけ、原稿末に参考文献として添付する。
21. 図・表・写真は、カラーまたはモノクロで提出する。図は B5 判の雑誌に掲載(かなり小さく掲載)することを考慮し、極力、不要な箇所、文字などは削除して提出する。また、図・表・写真のキャプションは別紙にまとめて提出する。なお、ホームページに掲載されているものは解像度が低いのでコピーして使用することは不可とする。
22. 図は原則的にパソコンにて作成し提出する(印刷物をスキャナーで取り込んだ画像やスクリーンショットなどを、Word 等に貼り付けたものは電子データとみなさない)。また、使用するアプリケーションは Word, Excel, Illustrator, Photoshop のいずれかで作成することを推奨する。その他、CAD ソフト、Power Point は使用できない場合があるので推奨しない。
23. 写真は、原稿(Word)に貼り付け、もしくは、JPEG, TIFF 形式で提出する。誌面での刷り上がりのサイズで画質解像度 350dpi 以上とする。なお、印画紙で焼いたものを提出することも可とする。
24. 原稿掲載用のほかにグラビア頁掲載用に工事の一連の流れがわかる写真(例えば、起工式、貫通状況、完成状況、工事のトピックスなど)を 10 枚程度提出する。グラビア頁用の写真は、原則として原稿で提出したものは別の写真を提出する。提出する写真には各々説明(キャプション)を 30 字以内で作成し併せて提出する。なお、「施工」以外(例えば、「研究」)の場合は、FEM等の解析画像などでもよい。掲載する写真は土木工学社で選別し、提出した写真のすべてが掲載できるとは限らない。
25. 図、表、写真などをほかの著作物(出版物)またはホームページから転用する場合は、必ず原著者と出版元あるいは管理者から承諾をとり、出所を参考文献に明記する。
(雑誌よりの転用の場合) 著者 1・著者 2(複数可、全員フルネーム): 題名、雑誌名、巻、号、始頁 - 終頁、発行年月(西暦)。
(ホームページより転用の場合) 管理者名またはホームページタイトル: ページタイトル、URL、閲覧日
26. 著者校正は初校一回で行い、大幅な修正は認めない。著者校正は 1 週間以内に行う。
27. 掲載された著作物は土木工学社が管理するものとする。ただし、執筆者がこれらの全部、あるいは、一部を執筆者が自らほかで利用する場合は、出所を明記すれば足りるものとする。また、第三者から転載の申し込みがあった場合は、土木工学社が窓口となり、可否を決定するものとする。

『トンネルと地下』執筆要領（トンネルウォール用）

1. トンネルウォールは、トンネルや地下構造物に関するものであれば投稿することができる。
2. 執筆は『トンネルと地下』執筆要領(論文用)に準ずる。
3. 原稿のボリュームは原則として掲載誌の刷上りで2頁とする（図・表・写真含む）。ボリューム（刷上り2頁）は、表題・見出しなどの分を考慮し3,000字程度を目安とする
4. 執筆者は原則として1名とし、投稿カードに必要事項を記入して提出する。

『トンネルと地下』では用字・用語を下記の表記のように統一しております(下記以外でも用字・用語の統一をお願いすることがございます)。

【一般用語】				【技術用語】			
該当語句	表記	該当語句	表記	該当語句	表記	該当語句	表記
有り	あり	様々	さまざま	無し	なし	カッター	カタ
如何	いかん	従って	したがって (動詞は「従う」)	何故	なぜ	コンベア	コンベヤ
一旦	いったん	…し易い	…しやすい	…等	…など	材令	材齢
所謂	いわゆる	全て	すべて	殆ど	ほとんど	シールド機	シールド
概ね	おおむね	但し	ただし	益々	ますます	充填	充填
及び	および (動詞は「及ぶ」)	因みに	ちなみに	又	また	侵入	浸入
個所	箇所	出来る	できる	稀	まれ	剪断	せん断
…ヶ所	…か所	特に	とくに	若しくは	もしくは	滞水	帯水
且つ	かつ	何処	どこ	最も	もっとも	縦坑	立坑
…毎	…ごと	何処	どこ	所以	ゆえん	チャンバー	チャンバ
この度	このたび	共に	ともに	僅か	わずか	土被り	土かぶり
		尚	なお	我々	われわれ	吹付	吹付け

図版・画像(電子データ)作成上の注意事項

【Word】

- ・罫線は細いものを使わない
- ・地紋(絵文字など)は使わない
- ・透明・半透明の効果を使わない

【Excel】

- ・罫線は細いものを使わない

【Illustrator】

- ・バージョン CS3 以下で保存する
- ・文字はすべてアウトライン化する
- ・リンク画像は埋め込みとする
- ・文字と図のレイヤーは分ける

【Photoshop】

- ・解像度は使用サイズ(100%)で 350dpi 以上とする
- ・JPEG で保存の場合は、画質を最高(低圧縮率)とする

【その他】

・上記以外のソフトにて作成の場合は、データを PDF に変換して提出する。Power Point の場合はデータを利用できる場合があるので、変換した PDF のデータといっしょに提出しても構わない。